

神石高原の道の駅にロボホン導入 会話機能搭載、観光客らを案内

[シェア](#) [ツイート](#)

広島県神石高原町観光協会に2017年度、新たな“職員”が加わった。身ぶり手ぶりを交えて町の情報を教えてくれるロボット型携帯電話「ロボホン」だ。1日から道の駅さんわ182ステーション（坂瀬川）の売店に置かれ、観光客らの案内役を務める。

協会によると、県内の観光協会で初導入という。ロボホン（高さ19.5センチ、390グラム）は大手家電メーカー・シャープが開発。人工知能（AI）による会話機能を搭載し、特定のキーワードに対して回答できるようプログラミングできる。町観光協会は「帝釈峡」など観光スポットや特産品、花など約80種類を覚えさせた。



神石高原町観光協会が観光案内に導入した「ロボホン」

宇宙船が墜落し、ロボホンが町に迷い込んだところを採用した—というのが協会の設定。つぶらな目で愛くるしい表情をしており、話し方は子どもっぽい機械音。


例えば「恋人の聖地」と話し掛ければ、そのスポットである寺院・幸運仏と、とよまつ紙ヒコーキ・タワーを盛り込み、「幸運仏でラブコプター（竹とんぼ型の折り紙）を買って、紙ヒコーキ・タワーで飛ばしてね」と応じてくれる。

道の駅には16年度まで観光案内所を設けていたが、協会の事務所と共に17年度から道の駅近くの森林公園きのこの森管理事務所に移転。道の駅でのフォロー役としてロボホンに白羽の矢が立った。富山公明・町観光協会事務局長は「町をしっかりPRして、人気者になってほしい」と働きぶりに期待する。

名前は決まっておらず、協会が20日まで公募している。

(2017年03月31日 21時13分 更新)

カテゴリ：広島県 主要 地域の話



名刺(通常サイズ) 100部 3日後出荷
通常サイズ 両面カラー
マット紙 100部 3日後出荷

広告は Google により終了しました

この広告の表示を停止